

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2670700349
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	嵯峨野ケアセンター そよ風
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町1(電話)075-864-5565

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年11月8日	評価確定日	平成19年12月12日

【情報提供票より】(平成19年10月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成	14	年	12	月	1	日
ユニット数	3	ユニット	利用定員数計	27	人		
職員数	27	人	常勤	22	人	非常勤	4
			常勤換算	24	人		

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 1階 ~ 3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000	円	その他の経費(月額)		円	
敷金	(有)	施設管理費500,000	円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)	160,000	円)	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	300	円	昼食	400	円
	夕食	700	円	おやつ	300	円
	または1日当たり		1700	円		

(4)利用者の概要(10月10日現在)

利用者人数	9	名	男性	0	名	女性	27	名	
要介護1	6	名	要介護2	12	名				
要介護3	6	名	要介護4	1	名				
要介護5	2	名	要支援2	0	名				
年齢	平均	84	歳	最低	64	歳	最高	94	歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 テイ医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

歴史深い嵯峨野にあり、広大な敷地の中に建つホームです。リビングの窓からは緑濃い山々が見渡せ、京都の夏の行事である五山の送り火がすぐ目の前に見えます。豊かな自然に囲まれ、敷地内に広い家庭菜園としあわせの滝がある恵まれた環境の中、入居者は、川のせせらぎや小鳥の鳴き声を聞きながら、移り変わる四季を感じ、穏やかに過ごされています。職員は、安心して生活していただくことが大切と考え、気持ちにより添ってケアされています。日誌の記録方法も、状態を書くだけでなく、入居者の行動や言動からその時々のお気持ちを把握して記録に残されています。それぞれの職員の考えや気付きは、介護計画にも反映され、より入居者一人ひとりを深く理解することにもつながっています。ホームでは、入居者を第一に考えながら業務改善をすることで、職員のストレスの軽減にもなり、質の高い職員が揃い、ケアの質も向上しています。法人全体で取り組まれている高齢者の尊厳を守ることとは当ホームでも徹底され、法人では京都で最初に開設されたホームということで、後進の指導にも力を注がれています。また、地域との関係も大変良好です。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で話し合った、センター方式を取り入れて活用することや、お気に入りの場所の確保等、改善するべきところは前向きに取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員全員の意見を反映しリーダーがまとめられました。自ら改善点を知ることができ、会議等でも話し合いながら、改善に向けて、しっかりした計画を立てて取り組んでいる最中です。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一度、地域包括支援センターの職員と、自治会役員、社会福祉協議会会長が参加する運営推進会議を開催しています。ホームからの報告や、参加者からは意見や情報をもったりと有意義な場となっています。地域から認知症について学びたいとの声があり、ホームで認知症介護の会を開催する運びとなりました。ホームでの生活にふれてもらおうと、入居者と同じ献立の食事をしていただくこともあります。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置しています。法人の相談窓口はフリーダイヤルであり、説明もしています。行事の際には家族会を開き意見を聞いたりしています。家族からの意見は貴重なものと受け止め職員間で共有されています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、町内では保健委員を努めています。役員会にも出席し、交流も深まりつつあり、地域の行事である敬老会や運動会には参加するだけでなく、職員が準備や後片付けを手伝っています。また、地域の方から、新鮮な野菜をもらったり、ホームの家庭菜園でできた採れたての野菜をおすそ分けをしたりとの交流もあり、ボランティアの訪問も多くあります。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に生きる」を基本にして、それを具体化した理念は、職員全員の思いを込めて作られた。開設から5年たち、今一度見直し、更に入居者第一の理念を作りたいと考えている。	○	見直しされる機会に、地域とのかかわりを明確な言葉にして理念に盛り込まれることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホームの玄関や各ユニットに掲示されている。日々のケアで実践できるように、毎朝のミーティングで唱和し、日常的に繰り返し理念について話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し、町内では保健委員を努めている。役員会にも出席し、交流も深まりつつある。地域の行事である敬老会や運動会には参加するだけでなく、職員が準備や後片付けを手伝っている。また、地域の方から、採れたての野菜をもらったり、ホームの家庭菜園でできた野菜をおすそ分けをしたり、の交流もある。ボランティアも受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員の意見を反映しリーダーがまとめた。会議等でも改善について話し合っている。前回の外部評価で話し合った点についても、改善できるように前向きに取り組んでいる最中である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、地域包括支援センターの職員と、自治会役員、社会福祉協議会会長が参加する運営推進会議を開催している。ホームからの報告や、参加者からは意見や情報ももらったりと有意義なものとなっている。地域から認知症について学びたいとの声があり、ホームで認知症介護の会を開催する運びとなった。ホームでの生活にふれてもらおうと、入居者と同じ献立の食事をしてもらうこともある。	○	家族会で意見をもらっていますが、運営推進会議での意見交換の場がより有意義になるように、家族も参加してもらえるような働きかけを期待する。

嵯峨野ケアセンターそよ風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政には運営推進会議の議事録を持って行ったり、ホームで開催の「認知症介護者の集い」のチラシを置いてもらっている。右京区のサービス事業所連絡会にも参加している。	○	会議には行政からの参加を働きかけてはどうでしょうか。ホームのこと、地域のこと等を知ってもらえ、介護情勢の情報を得られる機会にもなるのではないのでしょうか。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問の際に、入居者の状態や様子を伝えている。おおむね2ヶ月に一回、写真入りの「そよ風便り」を発行し、行事報告したり、予定を伝えたりしている。入居者と家族も直接に電話で話したりしている。金銭については、出納帳で管理し、毎月領収書を付けて収支報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。法人の相談窓口はフリーダイヤルである。行事の際には家族会を開き意見を聞いている。家族からの意見は貴重なものと考え職員間で共有している。	○	言いにくいという心情を押し量り、更に家族の思いや考えを把握するために、年に1～2回ぐらいの割合で、項目を決めてのアンケートを実施してはどうでしょうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での移動はあるが、職員全員が全ての入居者の馴染みの関係を築けるよう心がけており、ダメージが最小限になるよう取り組んでいる。各ユニット間でも異動があるが、職員のストレス軽減やスキルアップにつながり、離職が少なくなるように考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は順次参加できるように、ローテーションを工夫している。受講した研修には必ず報告書を提出し、資料とともに職員間で回覧し、会議等では伝達研修をしている。法人内の研修は段階に応じて参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会やケアマネ連絡会に参加し、情報交換したり、勉強会もしている。法人の別センターとは、会議を共にしたり、見学したりで向上できるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学では、家族と一緒にピングで過ごしてもらい様子を見ている。一泊無料体験利用制度もあり、ホームでの生活を経験してもらってから入居に至っている。入居前の話し合いには十分な時間をかけていて、どのホームが自分にあっているかを見極める為に他のホームの見学も促している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるということを念頭に、共に生きるという理念の基、一緒に過ごすことで、泣き笑いし、新たな気づきがあったり、四季折々の行事や言い伝え、京都ならではの行事や習わしを教えて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安心して生活してもらうことを基本にしている。意向の把握が困難な方には、表情や行動で思いを汲み取るようにしている。毎日の言動や状態はプロセスレコードの方法にて日誌に記録し、職員の思いや考えが反映できるようになっている。気持ちにより添ってケアすることは職員の共有である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式に取り組み始めたところであり、シートを活用して情報を収集し介護計画を作成している。その人らしく考えた計画をたてている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本は3ヵ月ごとにカンファレンスし、計画の評価を行い見直している。状態の変化にはすぐに対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症介護の会を開催し、地域の方々が参加されている。介護相談の窓口となるような取り組みもしている。入居者との個別の外出をしたり、家族が宿泊できたり、一緒に食事してもらえる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度内科医往診があり、24時間の連絡体制がある。緊急時にはすぐの対応もしてもらえる。歯科医も月に二回往診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の今後が心配との声が家族会からあがり、ホームとしてターミナルを考えるきっかけになり、ホームとしての姿勢を説明している。今までに看取りはまだないが、病院に搬送されるぎりぎりのところまでお世話した。法人としてもターミナルについての研修をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を守りプライバシーに配慮することは、法人の方針でもあり、職員全員が丁寧な言葉使いで、おだやかな接し方である。接遇マナーは特に注意している点であり、不適切な言葉使いが見られた場合は職員同士が注意し合う関係ができています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に希望を聞いてケアしている。意向を表す事が難しい方にも声かけの工夫で把握できるようにしている。業務優先にならないように気を付け、例えば、就寝時間や起床時間は自由である。		

嵯峨野ケアセンターそよ風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳、後片付けまで、入居者と一緒に行っている。季節の食材やおすそ分けの野菜を採り入れたり、家庭菜園でできた新鮮な野菜をふんだんに使っている。一緒に買い物へ行くこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前から午後まで入りたい時に希望にあわせて支援しているが、拒否される方には、声かけを工夫したり、時間をずらしたりしながら誘っている。入浴剤を使ってゆっくりと入浴を楽しんでもらっている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの趣味や得意なこと等、好きなことをしてもらえるように支援している。介護計画にも反映させている。ホームでの役割を持つことで、入居者の自信につながっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別での外出支援や、買い物、散歩、ドライブ等積極的に外へ出るようにしている。ホームの敷地が広く、玄関を出ると家庭菜園やしあわせの滝があり、外の気分を味わえる。毎日玄関前で体操している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	敷地が広く、門が二箇所開いているので、通り抜けをする方々が多く、安全面からの意味において施錠しているが、外出傾向にある方には、外へ出たいと思われた時にはすぐに対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との協力で、避難訓練を実施している。夜間を想定しての訓練も行った。救急救命講習も受講している。		

嵯峨野ケアセンターそよ風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が、栄養バランスやカロリーを考えた献立を立てているが新鮮な野菜や京都ならではの食材を多く採り入れている。同じ食材でもユニットごとに献立や味付けが変わり、食べ比べることができ、献立が豊富である。一人ひとりの食事、水分摂取量は把握して記録に残している。状態に合わせて、油物を控えたり、キザミにしたりお粥にしたりの対応もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は高級感があり、日本画が掛けられてあったり、季節の花や小物が飾られていたり、小鳥が飼われている。廊下の図書コーナーでは、ソファーに座り本を読みながら長い時間を自分らしく過ごされている。リビングの大きな窓からは、緑が多く見渡せる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いたれた家具や、好みの装飾品が置いてあったり、自分の家という感じが出るような居室作りをされている。仏壇や位牌等大切なものも持ってこられている。お茶碗や湯のみも家で使っていた物を持ってきてもらっている。		